



体外衝撃波治療について

体外衝撃波治療（SW；Shock Wave）は、物体が高速で動くときに発生するエネルギー波（衝撃波）を使って組織（筋・筋膜・腱・腱鞘・骨膜等々）の修復をうながす新しい治療です。当院では2019年よりSW治療を導入しています。



SWの治療効果

SWは、**患部に増えた痛覚神経をブロックして痛みをとる即時的な効果と組織の修復をうながす長期的な効果**があり、**反復することで組織の修復がすすみ、長期間にわたり痛みが軽減することが期待できます。**

SWの対象疾患

SWの対象疾患は痛みを伴う軟部組織全般の障害です。

1 腱・腱膜の痛み

膝蓋靭帯炎、足底腱膜炎、アキレス腱症、肩関節周囲炎（五十肩）

2 腱付着部の痛み

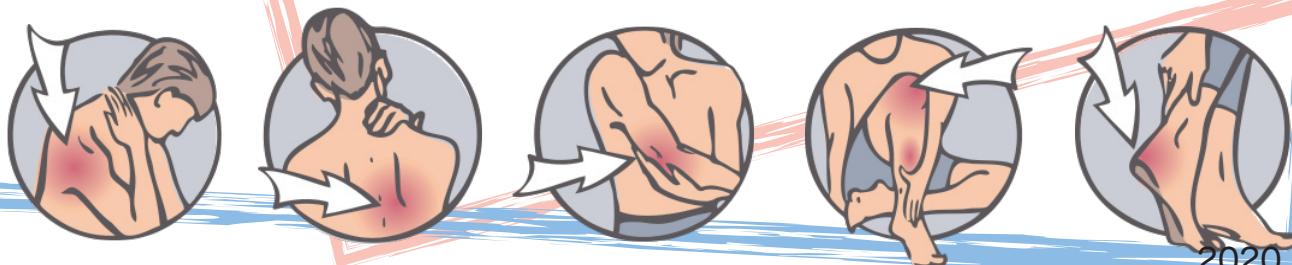
外側上顆炎（テニス肘）、内側上顆炎（ゴルフ肘）、踵骨棘、アキレス腱付着炎、ジャンパー膝

3 骨・骨膜の痛み

シンスプリント、疲労性骨膜炎

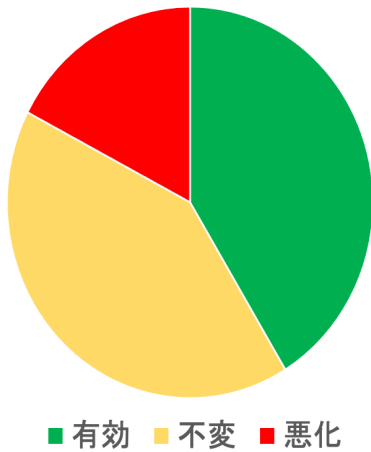
導入後1年間経過した調査では、SWが特に有効であったのは、**足底腱膜炎、外側上顆炎、アキレス腱付着部炎**です。また、SW自体の効果は大きくはないものの、**肩関節周囲炎**もリハビリや注射の併用で良好な治療結果を認めました。

SWの成績の詳細はこちら

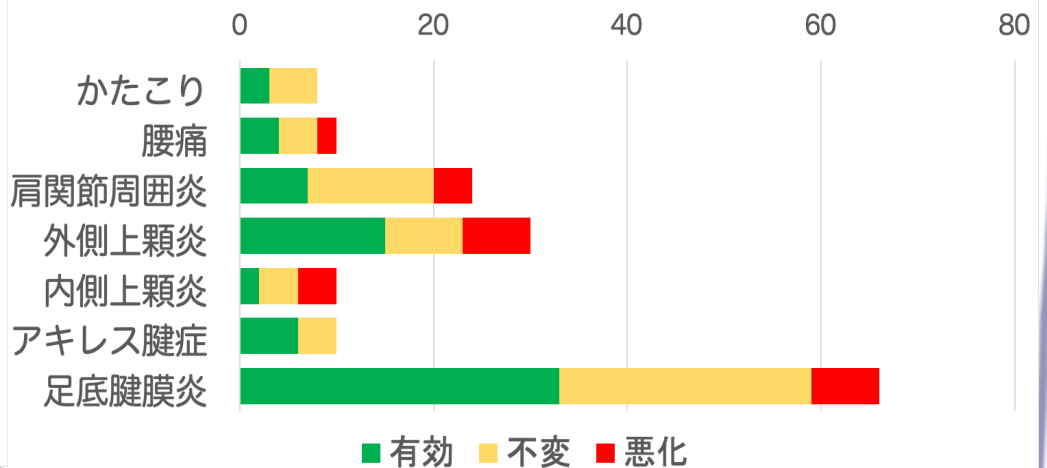


SW治療成績

痛みの改善

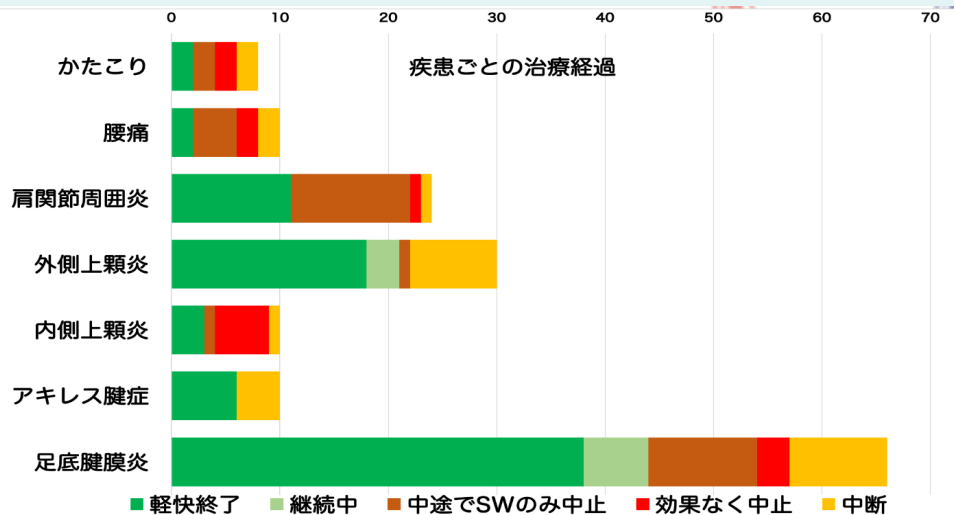
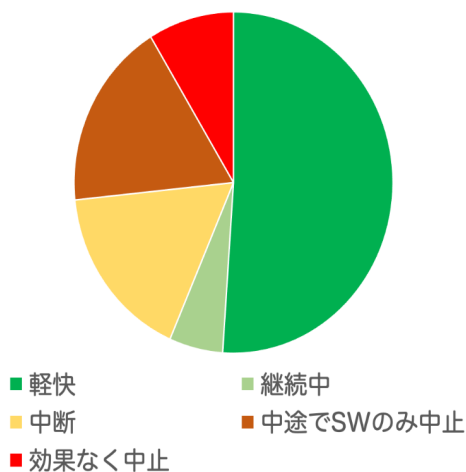


疾患別の痛みの改善



SW治療後に痛みが60%以上減った方は全体の**41.3%**でした。効果は疾患によって差があり、**外側上顆炎や足底腱膜炎、アキレス腱症で特に有効**でした。反面、肩こり、腰痛、肩関節周囲炎、内側上顆炎にはあまり痛みの改善は認められませんでした。

治療の経過



SW治療には理学療法士による運動器リハビリを併用しています。さらに薬や注射も組み合わせた治療で**症状が軽快した方は50%を超えており**、症状の軽快のない方は**25%程度にとどまっています**。特に痛みの軽減効果の低い**肩関節周囲炎でも関節の動きが改善し、24人中22人は最終的には治療効果を認めました**。

SW治療の実際

運動器リハビリと併用して**SWを3回（週1回）**で実施し、3回終了後にSWを休み、リハビリのみ実施して効果を確認します。この4週間を1クールにして全部で**3クール、9回12週の治療**を実施します。（疾患・症状の経過により、適宜変更されます。）

★ SW治療の予約並びに変更は電話（045-810-5441）で可能です。

副作用

SWに大きな副作用はありませんが、**治療中・治療後の疼痛・一時的な治療部位の腫れ、点状出血、感覚異常、知覚低下がおきる**ことがあります。